

## 第46回創大祭・第32回白鳥祭記念 「創価栄光の集い」記念講演

ベッド・P・ナンダ

こんにちは！ 最高顧問の原田稔様ならびに理事長の田代康則様、誠にありがとうございます。妻のキャサリンと私は、お二人にお会いできたことを心より光栄に思っております。本当に温かな歓迎をして下さった創価大学の馬場善久学長ならびに創価女子短期大学の石川恵子学長に心より感謝申し上げます。創大祭を拝見することができ、喜びでいっぱいです！

私たちは広島から戻ってきたばかりです。広島平和記念公園と資料館を訪れ、被爆者とお話いたしました。大変に感動し、励みになった体験でした。光栄にも広島学講座ではお話をさせていただきました。私たちがお会いしたすべての方々が平和のメッセージを抱いており、私はそのメッセージをこれからどこに行っても伝えていきたいと思えます。

私は嬉しいことにこれまで東洋哲学研究所をはじめ、著名な貴大学で2度、講演をする機会を頂戴しております。22年程前の1994年12月の初訪問の折も池田SGI会長の温かい招待により貴大学を訪れ、創価大学のオーケストラと合唱団による見事なベートーベン交響曲第9番の「歓喜の歌」を拝聴いたしました。今でもあの心地よい調べは耳朶から離れず、圧倒される程の美の体験は鮮烈に覚えております！

しかし、その喜びをさらに大きくしたものは、それに先立つ出来事でした。先ほど申し上げた通り、東京を訪れた目的は池田会長にお会いすることでした。私の親友であり、創価大学副学長補で当時はデンバー大学理事を務めていたマリア・グアハルド博士が私に同行し、池田会長を紹介してくれました。彼女からSGIと池田会長について話は聞いていたものの、会長との初めての出会いがどのようなものになるか、想像ができませんでした。

お会いすると、会長はとても歓迎してくださいました。初めての長い対話を通して会長が心温かく、礼儀正しく、好奇心旺盛で率直な方、かつ大変に雄弁な方だと感じました。私には、会長が先見性のある世界的指導者であることが明確に感じられました。後で振り返ると実に幅広き

---

Ved P. Nanda (デンバー大学元副学長)

まざまな話題について語り合ったことに気付きました。会長の平和への揺るぎない献身、教育の役割に対する情熱的な信念、ならびに核兵器を含むすべての兵器の廃絶を追求する恐れなきご決意をはっきりと感じました。

その後、デンバー大学の理事会が池田会長に名誉博士号を授与することを決定し、グアハルド博士と私は喜びました。池田博士が受章した数多くの名誉学位のひとつとなったのです。会長はいつものように雄弁かつ啓発的で、あらゆる場所で学生や学者に対して高らかに呼び掛けられていて、大変感激致しました。キャサリンと私と娘のアンジャリは、池田会長ご夫妻が我が家を訪れ、お茶を飲みながら懇談し、私たちのピアノで大切な曲を演奏して下さったことを心から光栄に思いました。

池田会長から対談のお話をいただいた時は大喜びいたしました。それまで会長が対談してきた世界で最も影響力のある政界の意思決定者たち、学术界の最も著名な学者たち、また、重要なオピニオンリーダーたちに啓発されておりましたから。そういう訳で『インドの精神—仏教とヒンズー教』へと結実する素晴らしい旅が開始されたのです。

対談は人類が現在直面している課題、また可能性等、数多くの話題に及びました。しかし、数々の課題について触れる中で私たちが最も焦点を当てたのは、仏教と私自身の信仰であるヒンズー教の役割、そして、地球市民社会の役割についてでした。

池田会長が大変博識であることは知っておりましたが、ヒンズー教にも深い造詣があることに私はしばしば驚き、うれしく思いました。単にヒンズー教の基本的、根本的教義だけでなく、教義の深層まで理解されていました。過去と現在のヒンズーの宗教や精神的指導者について非常によくご存じだったことに、深く感心いたしました。先週の 10 月 2 日は「国際非暴力デー」でしたが、会長はこの日が誕生日である非暴力の使徒マハトマ・ガンジーについて何度も語られました。私は深く感嘆し、池田博士から多くのことを学びました。対話を通して強く素晴らしい友情を築くことができたと実感しています。

先ほど申し上げた教育、軍縮ならびに平和の 3 点について、ここで少しお話したいと思います。生涯にわたり、教えることを生業としてきた教育者として、学生中心の価値創造の教育方法である創価教育制度について学べたことは新鮮な出来事でした。創価の学び舎を訪れ、学生たちに対する池田会長の講演を伺った際、この哲学が実践に移された姿を目の当たりにしました。私はこのような教師と学生の交流を見たことがありませんでした。池田会長は何百名もの学生たちに、まるで一人一人に個人的に語りかけているようでした。私自身、教職に就いていますが、このような精神と精神の出会いほど素晴らしいものはありません。まるで学生の一人一人が「私は

先生の一言一句を聞きました。聞くだけではなく、それを文字通り実践していきます。」と池田会長にお応えしているようでした。

私の数名のSGIの友人と話をしても同じメッセージが伝わってきます。彼らは一貫して池田会長がその模範的生き方と不二の精神をもって最も効果的な形で無数の人々を啓発されていること、また、会長が他者の幸福と成長を強く願い、これを教育の根本的精神とされている、と情熱的に語ってくれます。会長は教えを聞く側を愛情と共感と慈悲で導き、真の深い幸福感を味わいながら世界平和に人生を捧げるよう激励されるのです。

池田会長は対談中、創価学会の牧口常三郎初代会長について何度も言及されました。牧口氏は人々が幸福で創造的人生を歩むための力をつけるよう、人間主義の教育を提唱されました。池田会長は現在の創価教育の制度は一言で言えば、氏の構想の実践を目指すものだと言いました。すなわち学生たちは自身の幸福を目指すと共に、社会や全人類の平和のために尽力するよう励まされているのです。ご存知の通りこれらの目的を果たすべく、会長は日本やブラジルに創価学園、日米に創価大学、またいくつもの国々に創価幼稚園などの教育機関を設立してきました。

2日前の広島訪問では、池田会長の核兵器と核拡散の脅威に対する深い憂慮を再び思い出しました。会長は世界の指導者たちに核兵器を禁止する条約を締結するよう、繰り返し訴えてこられました。最近の平和提言では、まだ包括的核実験禁止条約を批准していない国々に対して一刻も早く批准を果たすよう、また、通常兵器の取引を規制することを求める武器貿易条約を批准するよう呼び掛けています。会長は「核兵器—現代世界の脅威」展を始められ、核廃絶に向け1千万を超える署名を集めるキャンペーンを展開すると共に、核兵器の廃絶に向けた提案を国連に提出してこられました。

池田会長は、核兵器のない世界の実現と維持のための法的措置を議論することを目的として国連総会によって設立された公開作業部会への呼びかけの中で、核報復に対する警戒態勢の解除と核兵器の近代化停止について審議するよう提案されました。公開作業部会はこの提案を今年3回のミーティングで取り上げ、池田会長による提案内容が採用されています。

最近の勇気づけられる進展をいくつかご紹介しますと、今総会（2016/9/13 第71回総会）で非核保有国6か国が来年の「核兵器禁止条約」制定交渉開始を強く求める決議案を提出し、国連安全保障理事会は核実験の自制を求める決議を採択しました。

世界平和に尽力する者は皆、池田会長の「平和の文化」構築への情熱的な要請を賞讃することでしょう。1983年以降、会長は毎年平和提言を発表され、その中でさまざまな地球的課題につ

いて取り上げ、解決策を提案されています。過去 33 年間にわたる普遍のテーマは、人類が直面する重要課題に対処する国連の役割と効果です。先見性のある池田会長は世界の人々をひとつにするためにいくつもの機関を設立されています。これには米国、ボストンの池田国際対話センターやホノルルならびに東京の戸田記念国際平和研究所が含まれます。仏教的な世界観から、世界平和を確かなものにするこそ池田会長の長年にわたる願望であり遺産です。会長が 1983 年に国連平和賞を受賞され、ノーベル平和賞の候補に名前が挙がっているのは当然の帰結なのです。

本日、皆さんに私の考えをお話しましたが、最後に明らかなことを申し上げたいと思います。未来は皆さんのような若い人たちのものです。ぜひ皆さんの理想とエネルギーと献身によって、世界から憎悪や不正や不平等をなくしたいとの願望をもって、単に差異を許容するだけではなく多様性を尊重し称える平和な世界を構築していきましょう。私は創価大学の皆さんが、敬愛する池田先生の掲げる崇高な目的を必ず実現するものと確信致しております。すべての人が求める光輝く未来を共に築いてまいりましょう！

ありがとうございます！